

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

2016年度（平成28年度）事業報告

<概要>

21世紀に入って、ボランティア活動を取り巻く環境は大きく変貌してきました。かつては、「活動してくれてありがとう」といった社会的な評価であったものが、今やボランティア活動は福祉の維持向上にとって必須の存在になってきたと言えるのではないのでしょうか。単なる「ありがとう」から「社会からの期待に応えているか?」ということが問われるようになってまいりました。

当協会のこのところの歴史的経緯を簡単にまとめてみましょう。当初の、「ボランティア活動なら何でもやります」といったことから、各地域やいるかバンクの活躍により、「私たちが受け持つ活動は何か?」ということを追及しながらの事業へと変化してきました。また、これは大事なことです。2009年度以降、市からの助成金がなくなり、市社協からの助成金のみへと助成金が半減したことによる財政的な危機を乗り切ることが大きな課題として横たわっていました。以後の7年間は、財政面での苦闘の期間となりました。その間に、協会事務局の役割の整理と再構築、認定NPO法人への移行と寄付金募集の活動、南連絡所のあじさい連絡所への統合、保有車両の1台売却とセダン型運行へのシフトなどの改革に取り組んできました。そして、2015年度には、それらの成果として、正味財産の減少（いわゆる赤字）がほぼゼロとなり、今期2016年度では2005年度以来となる正味財産の増加（いわゆる黒字）を達成することができました。もちろん、これも黒字が定着したというレベルではなく、まだまだ一過性のものでありますが、財政健全化の方向性については、会員の皆様のご協力が大きな力となったことは疑う余地がありません。

一方、事業展開の面でも、「私たちの受け持ち」分野として、住まい探しサポーター、就労支援、傾聴活動などの新しい事業を取り入れると同時に新たな活動参加者を得る努力も重ねてまいりました。これによって、減少気味であった会員数にも歯止めがかかってきたことは喜ばしいことと考えます。

以上、事業と財政の両面において協会の改革が進みましたが、これらはいずれも多くの会員の皆様のご協力があったことでした。ここに改めて会員の皆様に御礼を申し上げます。